

プロフィール（自己PR）

私は、大学教育学部と大学院教育学研究科で教育学と教育心理学を学び、卒業後、東京都公立小学校をはじめ、国立大学附属小学校で合わせて25年間小学校教員として奉職しました。その期間に、教育評価の重要性と算数数学教育の価値に触れ、数学に興味・関心を強く持つようになり、数学教育や教育心理学（なかでも教育評価）等をさらにより深く学び直したくなり、再び大学院で履修したり米国へ留学する機会をも得ました。修士課程修了後に大学の教員になりました。20年間幾つかの大学教員として、教育評価研究と数学教育研究を中心に、小中学校教員養成（学習評価、教育心理学・算数数学教育指導法等の講義演習や教育実習指導）等の仕事をしてきました。さらに、平成20年から発足した教職大学院の立ち上げに関わり、現職教員が学ぶ専門職大学院（教職大学院）の専任教員としても兼務し、現職教員の再教育、教員免許更新講習等にも努力してきました。所属する日本数学教育学会（理事）や日本教育心理学会では、研究発表やシンポジウム企画など学会の研究活動に従事しました。また、全国算数授業研究会や、新算数教育研究会、教育評価研究会など、現職の小学校の先生方との研究会を立ち上げ、主体的に実施される私的な授業研究会で実際の算数授業等の教育現場に即した授業研究研修活動を進めてきました。また、小学校と大学の在職中、長きにわたり中野区や都内各地区をはじめ、全国各地の小中学校校内研究会の年間講師や都道府県及び市区町村単位の教育委員会主催の教員研修会での講師等を務めさせていただき、先生方との授業研究をすすめたり各小学校での研究発表会に参加したりして、現職の先生方と学び合いました。それらの実際の授業実践事例や子どもの学ぶ姿から多くの知見を得ることができました。また、幾つかのPTAの研修会講師や、ここ数年は文京区立小学校の学校運営協議会（会長）としてその任務にも当たり、現場の先生方や教育関係者、学区域の保護者のみなさんとも学び合ってきました。3年前に大学を完全に退職した現在も、各地区の校内研究会や先生方の学習会に参加させていただき、新しい時代に見合った授業改善案を提案しています。まだまだ元気で健康なので、今まで学ばせていただいた知見などをフル活用し、なお一層地元中野区の小中学校の授業改善や教育活動の推進にも役立ちたいと、興味・関心・意欲を保持しています。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1. (課題)	1) 子どもの権利を保障し、一人ひとりのたいせつな子どもの「豊かな人間性」「健やかな心身」「確かな学力」育成を目指して、幼稚園、小学校、中学校等の教員の、実践性の高いキャリアアップ研修の充実をはかる。 について
<p>その解決方法（箇条書きで簡潔に）</p> <p>(ア) 人権研修：子どもの権利とその保障に関する知識と、具体的な学校教育における技能の習得を目指した研修の企画と支援をしたい。</p> <p>(イ) 教科指導研修：教科等指導に関わる昨今の新しい学習と評価の理論と、その授業実践力への知識獲得と技能習得を目指した研修の企画と支援をしたい。</p> <p>(ウ) 学業地研修：学校からの家庭への支援や地域社会参加など、学校・家庭・地域の連携の在り方とその具体的な活動を目指した研修の企画と支援をしたい。</p> <p>(エ) 自主研修の保障：区内教員同士の自主的な授業研究会や研修会、区内大学等の協働的研修会など、中野区独自の教員主体的の研修活動が盛んになるように支援をしたい。</p> <p>(オ) 「総合的な学習」をはじめいわゆる新しい「探究学習」の充実を目指した研修：教科指導と「探究学習」の関連をはじめ、「知識基盤社会」に見合う新しい学習指導へ研修企画とその支援をしたい。</p>	
2. (課題)	2) 子どもに、「豊かな人間性」「健やかな心身」、そして「確かな学力」を教え育てる活動業務に直接関わる、幼稚園・小学校、中学校等の教員に、効果的でゆとりある職場環境整備とその継続的保持をなお一層進める。 について
<p>その解決方法（箇条書きで簡潔に）</p> <p>(ア) 学校運営協議会との連携：学校運営協議会（地域学校運営協議会と地域学校協働活動）の拡充により学校運営を支援するシステムを強化し地域や保護者との問題解決を支援する環境整備への支援をすすめたい。</p> <p>(イ) 学校内の文書処理のIT化やAI化：指導要録等の文書作成、個別反復学習システム構築等を、民間企業の協力を得てデジタル化し事務処理作業軽減化で、児童生徒とのふれあいを増やす環境整備への支援をすすめたい。</p> <p>(ウ) 教職員の研修・研究の保障：主体的対話的な深い学びへと変化する授業研究等を学会会合への参加時間確保や費用的補助等、教職員のリスクリングによるキャリアアップへの支援をすすめたい。</p> <p>(エ) 学級児童生徒定員減の模索：学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部が改正され1学級あたり35名の方針が進められているが、中野独自の更なる定員減策を模索支援したい。</p>	
3. (課題)	3) 地域全体で子どもの成長を支え進める「子育ての中野区」を標榜し、その環境整備のひとつとして、各小中学校施設設備の充実のみならず、区内の教育文化施設の新設と既存施設充実、そしてその有効利用を促進する。 について
<p>その解決方法（箇条書きで簡潔に）</p> <p>(ア) 児童館、区民活動センター、教育センター、図書館、体育館等の施設の、以下の取り組みに向けた拡充を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フリーステップルームやフレンドルーム等不登校児童生徒や学習困難児等に対応した教育相談拡充の取り組み ・ 社会教育の一環で活動されている、スポーツや芸術文化等の地域のクラブ活動、子どもクラブの発展的取り組み ・ 中野区歴史的伝統的文化芸術活動の啓蒙と伝承への取り組み ・ 政治や哲学教育、キャリア教育、国際理解教育といった近未来に求められる資質向上への中野区独自の取り組み <p>(イ) コンピュータ等情報機器について学修し利用していくメディアセンターとしての施設の新設や既設図書館の発展充実をはかり、情報機器操作体験、学習応用、情報リテラシーの育成等を進める。</p> <p>(ウ) 子ども食堂やボランティアセンター等社会福祉関連施設との連携を模索する。</p>	

氏名 黒澤 俊二

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

人権尊重をベースにした多様化を原動力とし、質的な豊かさをめざす子どもの成長につながるあらたな価値とそれに伴う知識や技能を生み出していく教育が求められる新しい時代となった。具体的には、学校教育において獲得すべき知識と技能、思考力、態度に大きな変化が現れている。例えば、内容的な理解と習得といった、いわゆるコンテンツベースの学力から、人と人の人間的な相互作用の重要性とその相互作用活性化に向けて道具を活用する知識と技能の習得等、いわゆるコンピテンシーベースの学力へ、コペルニクス的転換が求められている。それに応じ学校教育における指導評価の内容と方法も変化が求められる。その新しい時代に見合った中野区の教育内容とその実践へと、現実的には少しずつだが、大きく改善を進めていかなければならない。それらの改善に向け自分の今までの仕事で得た知見を活用し、地元中野の教育実践に強く役立ちたいという意欲で応募した。